

警察庁によると、2023年の薬物事犯の検挙人員は1万3330人と前年比で1188人増加しました。このうち、大麻事犯は6482人の大幅増で過去最多。一方、覚醒剤

事犯は591

4人と201

6年以降減り

続けています。暴力団構成員等の検挙人員は2778人で減少、外国人の検挙人員は1201人と増加。

また、麻薬、向精神薬事犯の外国人の検挙人員は233人で、前年に

引き続き、他の薬物事犯と比較して外国人の割合が高くなっています。

大麻事犯の検挙人員の年齢層別では人口10万人当たりで、20歳代が大幅に増加、次いで20歳未満、30歳

代でした。危険

ドラッグ事犯の

検挙状況は20

15年のピーク以降、減少傾向が続いていましたが、2022年に増加に転じ、2023年は424人と前年から大幅に増加しました。

## 薬物事犯の検挙状況

防犯一口メモ